

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	多機能型通所支援事業所リアンジュ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所と利用児童の家族との情報共有がなされている。	聞き取りを行う中で自宅でできる事が何かを考慮し、事業所として利用児童やご家族に対して出来る支援を提示している。また、実施した内容やそれに伴う利用児童の反応などの報告も欠かさずに行っている。	保護者会の開催を継続しご家族の参加が定着する事で事業所での活動の様子や取り組みについてご家族が知る機会を設ける。
2	ご家族のニーズを把握し、自宅での育児や介護軽減につながる支援提供を実施している。 入浴設備や送迎車が充実しており、個室を設置している。	療育の他に、送迎、入浴支援の提供を行っている。また、急な利用希望にも可能な限り受け入れ対応している。	法人内の事業所とも連携を図り、安定した療育の確保。
3	療育活動や個別支援・ケアに対しての振り返りの機会を設けている。	虐待防止、安全対策や各種研修や会議の実施や朝や業務終了後の申し送りにて情報共有し支援の振り返りを行う機会を日常的に設けている。	職員が講師となって研修を開催する機会を設ける。 利用児童に対しての職員の見立てを大切にし、職員の試してみたい支援に対するサポートの強化。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療専門職の定着ができない。	利用児童に対しての医療、リハビリの必要性が伝わらず、やりがいに繋がらない。	看護師、理学、作業療法士がケアやリハビリなど専門的な業務に集中できる時間の確保を行う。必要に応じて専門職同士の研修に参加する事で、各職種同士の悩みを共有出来たり日々の支援に生かせる活動などを知る機会を設ける。
2	保護者会に関する取り組みや各種会議が開催されている事に対しての周知が満足ではない。	書面や申し送りのみでの共有である為、日常的な事な事への把握や話し合いは出来ているが、サービス担当者会議など頻回に行われない会議等の把握が手薄であると考える。	申し送りの際には、会議の内容だけではなく名目や会議名、目的も言葉にして伝える必要がある。
3	業務に当たる職員が、職員の配置に対して手薄さを感じる場面がある。	体調不良などで急な職員の休業などがある際にも最低限のサービス提供を実施する。	利用児童やご家族がニーズとして求めているサービス提供の優先順位を把握し、職員間で周知する。また、ニーズの優先順位を考慮した上で業務の見直しを行い、事業所の状況に応じた対応する可能性があることへの相互理解を深める必要がある。